

JA 全農 ET センターニュース平成 16 年 4 月号

今月号は昨年 11 月に北米出張した際に入手したカナダのアルタエンブリオグループの ET 情報をお届けします。

カナダ：ALTA EMBRYO グループ

カナダのロッキー山脈を一望できるアルバーター州カルガリー市郊外にある国内最大の ET 会社アルタ・エンブリオ・グループを訪問しました。Dr.R.J.McAlister 社長以下 3 名に対応していただき 概要の説明を受けました。

まず、社長の第一声がカナダの BSE 発生以降、肉牛受精卵の輸出が低迷しており、今年ของบริษัท運営はかなり厳しいとのことでした。例年であれば、年間 2700 個の受精卵を輸出しているが、ほとんど輸出は停止状態とのことでした。スタッフは 12 名で運営されており、獣医師は 3 名で、年間 1000 頭から採卵、約 7000 個の受精卵を作出している。供卵牛の品種は様々で、肉牛であればアングス、レッドアングス、シンメンタール、シャロレー、ヘレフォード、和牛等で乳牛ではホルスタイン、ブラウンスイスが中心とのことでした。生産者庭先での採卵が約 30% 残りは会社内での採卵とのことでした。年間庭先を含めて 2500 頭の ET を実施している。受胎率は場内で新鮮胚が 70%、エチレングリコールによる凍結胚が 60% とのことでした。性判別新鮮卵は通常の新鮮卵とかわらないが、性判別凍結胚は 47% と低いとのことでした。OPU (経膈採卵) は 1993 年から開始し、FSH 投与 (2-3 日投与) 後、採卵して 1 回あたり 2 から 4 個の体外受精卵が作出できているとのこと。また、性判別は米国の AB テクノロジー社のキットを使用しているが、10% は判定不能、判定できたものの中では、95% の精度で産仔の性と一致しているとのことでした。クローンについては英国ケンブリッジの有名なウィラドセン博士を当社に招聘して、受精卵クローン事業を実施してきたが、体細胞クローン技術が発展したため、受精卵クローンの事業化は断念したとのこと。そのかわりに、現在、受精卵の 2 分割を行っており、10 個の受精卵を 20 個にして、11 頭の受胎を平均的には得ているとのことでした。また超音波診断による胎仔の性判別を実施しており、55-90 日齢胎仔の性判別を有料で実施していた。1 頭あたり 10 秒で診断できると社長が豪語するので、是非見せてくれと依頼すると、すぐ、牛を用意してくれ、本当に 10 秒で誤りなく診断できることを証明してくれました。またカナダにおいては開業獣医師が ET を地域で行うケースが年々増加傾向にあるとのこと。

北米 ET 情報は今回で終了します。次号からは、通常の ET 技術情報をお伝えします。